

別添 7-5 (第 3 の 2 関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 岐阜県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当 額 (円)	
I 日本版畜産 G A P 指導活動 の推進	10 経営体	10 経営体	100%	A	412, 500	412, 500	
II 日本版畜産 G A P 等認証の 取得拡大	1 経営体	0 経営体	0%	D	0	0	
事業の成果 県下における GAP 指導体制の構築のため、新規指導員資格の取得（7 名）、指導員資格の更新（3 名）を推進した。また指導員による畜産 GAP の普及・推進活動を、10 件の畜産施設において実施した。 農業高校 1 校において GAP 認証取得を計画していたが、新型コロナウイルス感染症の影響により認証取得を達成することができなかった。							
都道府県による評価 畜産 GAP 指導活動の推進については、指導員資格の新規取得及び更新により県下指導体制を構築し、10 件の畜産施設において指導を実施することができた。指導を実施した 10 件のうち、1 件（養豚）については、指導により JGAP 家畜・畜産物の認証取得に繋がった。 畜産 GAP 認証の取得拡大については、新型コロナによる影響から、取得を計画していた農業高校 1 校において、休校等により十分な活動ができず、計画した取り組みができなかった。今後、新型コロナによる影響を考慮しつつ、認証取得に向けて指導を継続する。							
国による評価 ・令和 3 年度中に新たに 7 名の畜産 G A P 指導員を育成するとともに、3 名の指導員資格更新を行った結果、年度末の指導員数は 21 名（昨年度末と同数）となり、畜産 G A P 指導体制の強化が図られた。 ・日本版畜産 G A P 指導活動の推進については、指導員により 10 件の畜産施設において指導を実施し（目標値 10 に対し実績 10、達成度 100%）、計画どおりの成果が見られる。 ・日本版畜産 G A P 等認証の取得拡大については、農業高校において畜産 G A P 認証を新規取得する計画であったが、新型コロナによる休校等により十分な活動や計画通りの取組ができなかったというやむを得ない事情はあるものの、実績（目標値 1 に対し実績 0、達成度 0 %）がないことから、令和 4 年度に目標が達成されるよう農政局へ改善計画を提出済。 ・なお、新型コロナの影響で取組が遅くなり年度内の認証取得が定かでなかったことから、県単事業として取り組んでいた（有）吉野ジーピーファーム白川農場（豚）（岐阜県大野郡白川村）が令和 4 年 3 月 4 日付けで新規認証取得しており、本事業計画で重点地域に指定していなかったため本事業の実績にカウントはできないが、持続可能な畜産業の発展に大きく寄与するものと思慮する。 ・なお、岐阜県は新型コロナ対策として、令和 3 年 4 月 23 日、令和 4 年 1 月 17 日に県独自の「非常事態宣言」が発表され、現場活動等の制限を余儀なくされたことに伴い、年度途中で、成果目標Ⅱの目標値 2 → 1 へ重要な変更を行っている。							

別添 7-5 (第 3 の 2 関係)

畜産GAP拡大推進加速化交付金の事業成果及び評価報告書（令和3年度）

都道府県名 愛知県

目的	目標値				事業実績		備考
	目標値	実績	達成度	評価	事業費実績 (円)	うち交付金相当 額 (円)	
I 日本版畜産 G A P 指導活動 の推進	2 経営体	2 経営体	100%	A	154, 300	154, 300	
II 日本版畜産 G A P 等認証の 取得拡大	1 経営体	1 経営体	100%	A	200, 000	200, 000	
事業の成果 田原市を畜産G A P 認証重点地域に位置づけ、当該地域にある愛知県立渥美農業高等学校が実施する畜産G A P 認証取得（肉用牛）の取組を支援した。また、当該地域をはじめとする各地域に配属されている農業改良普及指導員 3 名を畜産G A P 指導員に育成し、畜産G A P 推進体制を強化した。							
都道府県による評価 畜産G A P への取組を通じ、基礎研修及び団体認証研修の指導員資格を取得し指導員を育成したことで、県として今後認証取得の相談等に対して適切に対応できる体制を整えることは、家畜・生産物の生産工程の管理レベルが向上につながり、持続可能な畜産業の発展に寄与できるため、適切であった。							
国による評価 ・令和 3 年度中に新たに 2 名の畜産G A P 指導員と、1 名の畜産G A P 上級指導員を育成したことにより、年度末の指導員数は 17 名（昨年度末より 2 名増加）となり、畜産G A P 指導体制の強化が図られた。 ・日本版畜産G A P 指導活動の推進については、指導員により「愛知県立渥美農業高等学校」及び「株式会社夢たまご」2 件において指導を実施し（目標値 2 に対し実績 2、達成度 100%）、計画どおりの成果が見られる。 ・日本版畜産G A P 等認証の取得拡大については、愛知県立渥美農業高等学校（肉用牛）の認証取得の取組支援を行った結果、令和 3 年 11 月 9 日付けで新規認証取得しており（目標値 1 に対し実績 1、達成度 100%）、計画どおりの成果が見られ、畜産G A P の拡大及び推進に大きく寄与したものと思慮する。							